

教科	地理歴史	科目	地理総合			単位数	2
学科	工業科	履修学年	2	コース		必修・選択	必修
教科書	『新地理総合』（帝国書院） 『新詳高等地図』（帝国書院）						
副教材等	『高等学校 新地理総合ノート』（帝国書院）						

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
指導の重点		現代の世界は、「グローバル化」「国際化」といわれるほど、さまざまな国や地域との交流がさかんになり、お互いの国や地域について理解することが重要な時代になっている。地理総合ではそれぞれの国や地域での生活・文化を概観し、課題を解決する力を養い、国際人として生きる力を身につけられるように指導をする。		
学習計画	学期(時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1学期(20)	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 ①地球上の位置と私たちの生活 ②時差と私たちの生活 2節 地図の役割と種類	・地図表記の仕組みや図法の特徴を理解し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。 ・新聞広告や図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができている。 ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解する。 ・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出 定期考査

	①地球儀と地図 ②身の回りの地図 ③統計地図の種類と利用 ④地理情報システム (GIS) の活用 第2章 結び付きを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域 ①現代世界の国家 ②日本の位置や領域 2節 グローバル化する世界 ①国家間の結び付き ②貿易によって結び付く世界 ③さまざまな交通網の発達 ④世界を結ぶ通信網の発達 ⑤観光のグローバル化 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活・文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活 ①大地形 ②変動帯 ③安定地域 ④河川がつくる地形 ⑤海岸の地形 ⑥氷河地形・乾燥地形・カルスト地形 (①～⑥と人々の生活)	特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。 ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまな Web 地図にアクセスし、日常的に使われている GNSS や GIS など、新しい地図表現の役割を理解する。 ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起きている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 ・グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。	
2 学期 (24)	2節 世界の気候と人々の生活 ①気温・降水 ②大気大循環 (①②と人々の生活) ③世界の植生と気候区分 ④熱帯 ⑤乾燥帯 ⑥温帯 ⑦亜寒帯・寒帯 (④～⑦の生活) 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 ①世界の言語 ②世界の宗教 (①②と人々の生活文化) 4節 歴史的背景と人々の生活 ①歴史的背景が人々の生活に与える影響 5節 世界の産業と人々の生活 ①人々の生活を支える農業の発展 ②人々の生活を支える工業の発展 ③グローバル化する現代の産業と人々の生活	・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 ・世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。 ・祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。 ・多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出 定期考査

	第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 ①相互に関連する地球的課題とその解決に向けて 2節 地球環境問題 ①多様な地球環境問題 ②熱帯林の破壊への対策 ③地球温暖化への対策 3節 資源・エネルギー問題 ①世界のエネルギー・鉱産資源 ②エネルギー資源の現状と課題 ③地域で異なるエネルギー問題への取り組み 4節 人口問題 ①世界の人口 ②発展途上国と先進国の人口問題 ③地域で異なる人口問題への取り組み 5節 食料問題 ①飢餓と飽食 ②地域で異なる食料問題への取り組み 6節 都市・居住問題 ①世界の都市の発達 ②発展途上国と先進国の都市・居住問題 ③地域で異なる都市・居住問題への取り組み	・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを理解する。 ・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。 ・人口問題について、先進国の少子・高齢化、発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。 ・食料問題について、食料分配の不平等さが飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する。	
3学期 (20)	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と災害 1節 日本の自然環境 ①地形 ②気候 2節 地震・津波と防災 ①地震・津波による災害 ②地震・津波の被災地の取り組み 3節 火山災害と防災 ①火山の恵みと災害 ②火山と共生する地域の取り組み 4節 気象災害と防災 ①さまざまな気象災害 ②気象災害への取り組み 5節 自然災害への備え ①減災の取り組み ②被災地への支援 第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望 ①地理的な課題と地域調査 ②現地調査の準備 ③現地調査の実施 ④調査の分析と発表	・日本列島は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 ・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。 ・変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。 ・防災や減災のために地形図を活用するため、地形図の読図について理解する。 ・降水強度の高い湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。 ・自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。 ・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 ・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合う。	授業態度 発問評価 提出課題 ノート提出 定期考査

計64時間（55分授業）

評価の観点 の趣旨と評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めようとしている。
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、発表内容、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、授業への取組、発表内容、レポート等各種提出物の内容、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79～50%をB、50%未満をCと評価する。